

【研修のねらい】

☆「学校図書館教育」について知る。

- ①学習指導要領では
- ②県の政策では

☆「学校図書館の3つの機能」について知る。

- ①読書センター機能とは
- ②学習・情報センター機能とは

☆実際の授業場面（学校図書館活用教育研修用DVD）を視聴して、学習過程を知る。

☆今市小の「学校図書館活用教育」について知る。

- ①学年部・司書教諭・学校司書の連携
- ②昨年度の課題
- ③教材の整備



☆「学校図書館教育」について知る

①学習指導要領では

◆学習指導要領国語科解説第4章

関連的な指導と学校図書館などの活用に関する事項

(2) 第2の各学年の内容の

「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]に示す事項については、相互に密接に関連付けて指導するとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。その際、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また、児童が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるようにすること。

◆学習指導要領総則第3章5節

10 学校図書館の利活用（以下、抜粋）

- 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。
- 学校図書館は、学校の教育活動全般を情報面から支えるものとして図書、その他学校教育に必要な資料やソフトウェア、コンピュータ等情報集団の導入に配慮する。
- 司書教諭が中心となって、児童や教師の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与することができるようにするとともに児童の自主的主体的な学習や読書活動を推進することが要請される。
- 各教科等においても、国語科、社会科および総合的な学習の時間で学校図書館を利活用することを示すとともに、特別活動の学級活動で学校図書館の利用を指導事項として示している。

②県の政策では

◆島根県〈子ども読書県しまね〉の重点施策

「思考力・判断力・表現力を育成することをねらいとして情報の活用能力を高めるためのスキル学習を取り入れながら、学校図書館の図書資料等を使って調べる学習活動を展開すること」



学校図書館活用教育

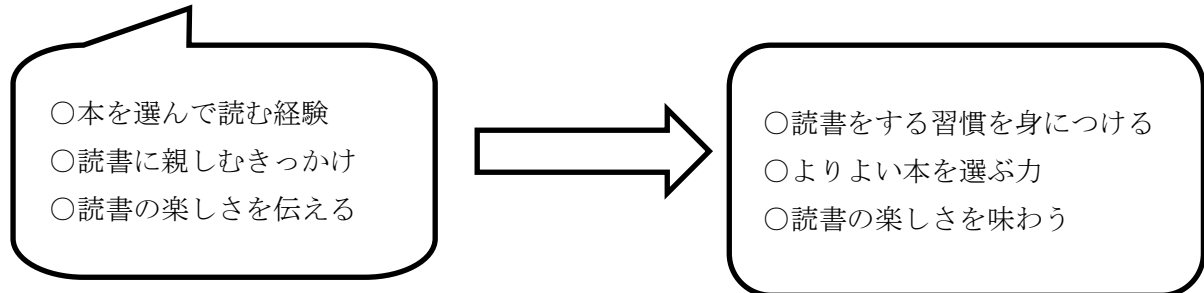
学校図書館活用教育とは「豊かな人間性」や「情報活用能力」を育成し、「生きる力」を培うことを目標に、学校のカリキュラムに学校図書館の活用を統合した形で取り入れて進めていく教育。

『学びを支え ころをはぐくみ しまねの学校図書館』（HPより抜粋）

☆「学校図書館の3つの機能」について知る

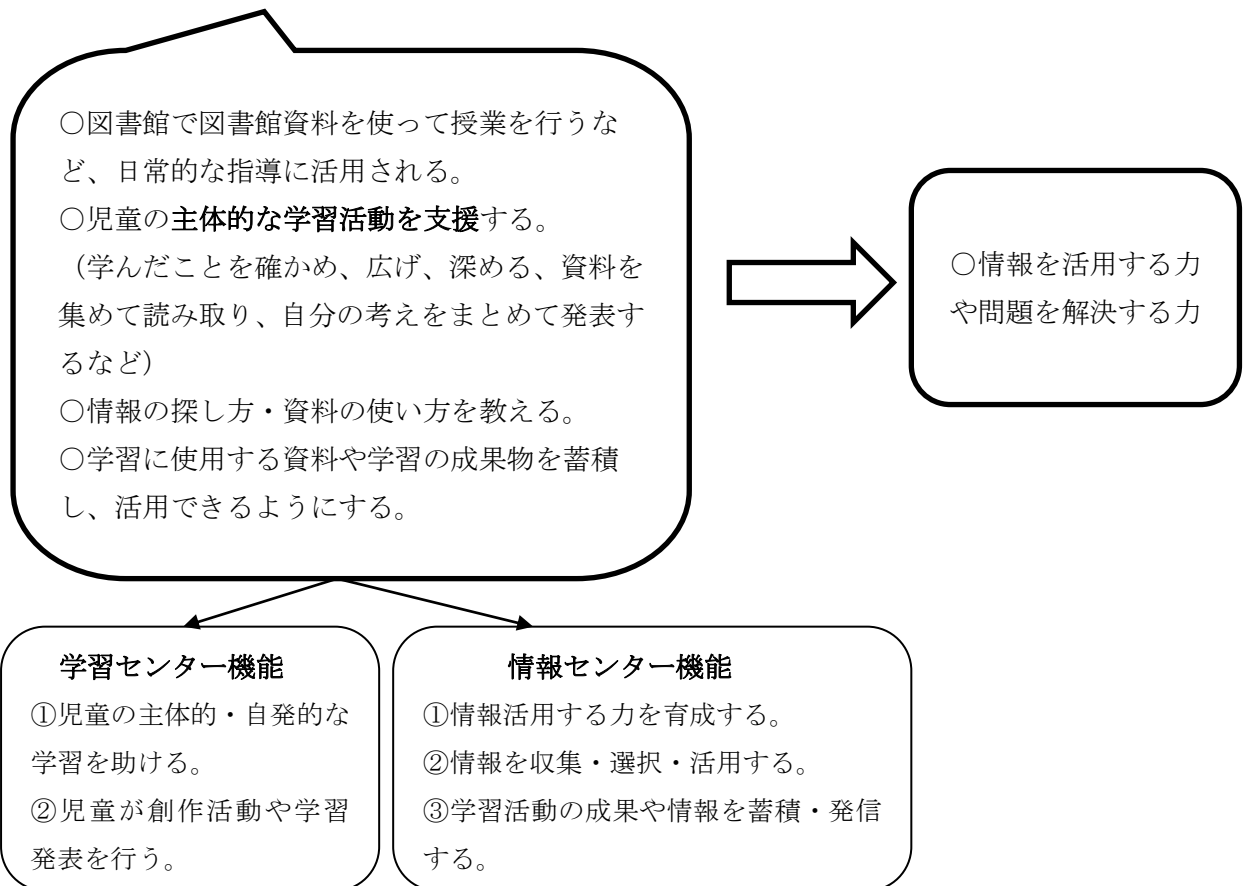
①「読書センター」機能とは

学校図書館は、児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能を果たす。



②「学習・情報センター」機能とは

学校図書館は、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」としての機能を果たす。



☆実際の授業場面（学校図書館活用教育研修用DVD）を視聴して、学習過程を知る。

「学びを支え 心をはぐくむ しまねの学校図書館」より

○「情報活用教育の学習過程」（島根県立大学短期大学部 堀川照代 教授）

○「まとめ・発表～新聞にまとめる」（邑南町立石見中学校）

☆今市小の「学校図書館活用教育」について知る。

①学年部、司書教諭、学校司書の連携

〈司書教諭〉 子どもと資料をつなぐ役目
〈学年部（担任・教科担当）〉 学習の構築者
〈学校司書〉 子どもの本の専門家

事前打ち合わせ

〇〇のやり方があるよ。

こんな授業がしたい
・ねらい ・言語活動
・資料のテーマ

資料を準備します。

教材研究・教材準備

資料準備

授業実践

→

成果物の展示

実践を記録して残し、次年度以降の資料とする。

②昨年度の課題

◆図書館アンケートより

【児童の課題意識・目的意識】

- 「知りたいことを調べる」という目的意識をもたせることが必要。与えられた課題を調べている児童が多い。

【児童の表現力】

- 人前で発表することについて、「どんなふうにしゃべればいいのか分からない」「はずかしい」などの苦手意識をもつ児童が多い。

【情報リテラシー】

低学年「調べたことを、相手に分かるように、発表することができますか」

中学年「調べたことをもとに、自分の考えをいれて、まとめたり伝えたりすることができますか」

高学年「相手に自分の考えがよく伝わるように、表現の方法を工夫したり、自分の考えを交流させたりすることができますか」

- 高学年で「できる」と回答している児童が20%弱と、他学年と比べてやや低い数値となっている。まだ児童が自信をもって「できた」「分かった」という意識をもてていないことがうかがえた。



「言葉で分かったことや分からないことを具体的に伝える力」が十分にはついていない

③教材の整備

◆シンキングツール

【課題設定のためのツール】学習課題のテーマから、自分自身の課題をより明確に設定するためのツール

- ・3点決め
- ・ペンタゴンチャート
- ・イメージマップ
- ・マンダラート法等

【情報の収集 整理のためのツール】必要な情報を取り出したり、分類したり、共通点を見つけたりするために使うツール

- ・ポーン図
- ・ベン図
- ・情報カード等

◆図書館活用教育ファイル

- (ア) 国語ファイル
- (イ) ブックリスト
- (ウ) ワークシートファイル
- (エ) 情報カードファイル (児童)

学校図書館に配備